

資料 8 - 1



第26期日本学術会議アクションプラン の取組状況について

日本学術会議会長 光石衛

- 日本学術会議のより良い役割発揮に向けて、特に今期に重点的に進めていく事項
- 幹事会構成員のほか、産業界、若手アカデミー、広報委員会などの会員・連携会員を加えた「第26期アクションプラン企画WG」(企画WG)を中心に、委員会・分科会等と協働して取り組む

1. タイムリー、スピーディな意思の表出と助言機能の強化
2. 学術の発展のための各種学術関係機関との密接なコミュニケーションとハブとしての活動強化
3. ナショナルアカデミーとしての国際的プレゼンスの向上
4. 産業界、NGO/NPOをはじめとする多様な団体、国民とのコミュニケーションの促進
5. 学術を核とした地方活性化の促進
6. 情報発信機能の強化
7. 事務局機能の拡充を含む企画・執行体制の強化

(令和5年12月9日日本学術会議第190回総会資料より)

1. タイムリー、スピーディな意思の表出と助言機能の強化

(具体的な取組)

✓課題解決型の助言機能強化

⇒速やかな意思の表出に向けて取り組む課題

✓査読プロセスの改革による迅速化・見える化

✓システムの活用を含む発出した提言等の確実なフォローアップ及び横展開

速やかな意思の表出に向けて取り組む課題

科学技術・イノベーション基本計画

科学者委員会 学術体制分科会

➤ 第7期科学技術・イノベーション基本計画に向けての提言(仮題)

2024年10～11月予定

食品制度

食料科学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会・健康・生活科学委員会関係分科会合同※

➤ 国民の健康維持・増進に資する食品制度に関する提案(仮題)

2024年10～11月頃予定

生成AI

情報学委員会

➤ 生成AIを受容・活用する社会の実現に向けて(仮題)

2024年11月頃予定

量子技術

情報学委員会

➤ 量子未来社会の健全な発展へ向けた課題と展望(仮題)

2024年11月頃予定

カーボンニュートラル

循環経済と自然再興を活かした炭素中立社会への移行に関する検討委員会

➤ 「2050年カーボンニュートラル」に対応するため、循環経済(サーキュラーエコノミー)と自然再興(ネイチャーポジティブ)との関係性や必要な施策等の諸課題を明らかにする。(意思の表出の名称等は未定)

2025年夏頃予定

研究力強化

我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会

➤ 日本の研究力の国際的状況、学術政策の効果の因果分析、今後の方策などを検討予定(意思の表出の名称等は未定)

➤ その他の取組

防災・減災

防災減災学術連携委員会

➤ 第6回「防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会」を防災学術連携体と開催(8/22)

※食料科学委員会・農学委員会合同食の安全分科会、食料科学委員会・基礎医学委員会合同獣医学分科会、食料科学委員会・農学委員会合同農芸化学分科会、薬学委員会・食料科学委員会・基礎医学委員会合同毒性学分科会、健康・生活科学委員会パブリックヘルス科学分科会

2. 学術の発展のための各種学術関係機関との密接なコミュニケーションとハブとしての活動強化

(具体的な取組)

✓「未来の学術振興構想」の浸透・議論のためのフォーラムの開催及び学術研究振興分科会における更なる検討

⇒ 学術フォーラムを開催(2024年10月4日)

✓研究力強化に向けた検討の推進

⇒ 「我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会」を設置(2024年8月30日)

✓学協会との更なる連携の強化に向けた方策の検討

未来の学術振興構想
— 実現に向けて —

25期に提出した「未来の学術振興構想(2023年策)」について、(貴族の存在が社会において共有するときに、その実現に向けてどのような議論が行われるべきか、また、本構想をより豊かにしていくためにどのようなことが考えられるかなどについて、日本学術会議各部門の専門家及び外部関係者による議論を行います。

令和6年 **10月4日(金) 13:00~18:00**

【開催場所】日本学術会議講堂(ハイブリッド開催)
〒106-8555 東京都港区六本木7-22-34
東京メトロ千代田線「六本木駅」下車、15番出口より徒歩1分

参加費 無料 **事前参加 申込制**
どなたでもご参加いただけます。

申込方法
▶事前申し込みは下記 URL または QR コードから
<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0270.html>
申込メ契: 9月27日(金)
日本学術会議議室での参加は定員になり次第締め切り、超過の場合はオンライン参加

プログラム 司会進行: 山本 眞子 (日本学術会議第二委員会、日本学術会議学術振興分科会センター長)

13:00 ~ 13:05	開会挨拶	光石 寛 (日本学術会議会長/第三委員会、独立行政法人大学改革推進本部・学術振興局長、東京大学名誉教授)
13:05 ~ 13:15	未来の学術振興構想(2023)について【提言規定説明】	光石 寛 (西席)
13:15 ~ 13:30	【未来の学術振興構想(2023)】提言規定総論	山崎 典子 (日本学術会議委員長、独立行政法人大学改革推進本部学術振興分科会研究部長)
13:30 ~ 13:45	【人文・社会科学領域分科会】 ネットワーク社会における包摂性と多様性の実現	鈴木 基史 (日本学術会議第一委員会、京都大学大学院研究科教授)
13:45 ~ 14:05	【生命科学領域分科会】 生命科学の新たな展開と創成	石塚 真由美 (日本学術会議第二委員会、北海道大学大学院研究科教授)
14:05 ~ 14:35	【工学・工学領域分科会】 自然の要求と技術革新による未来社会の基盤形成	田辺 英一 (日本学術会議第二委員会、東京大学大学院研究科教授)
14:35 ~ 15:05	【分科会別】 分科会別で近く学術の未来	岸本 喜久雄 (日本学術会議第二委員会、東京工業大学名誉教授)
15:15 ~ 15:40	日本の学術の現在と未来の学術振興構想 未来の学術振興構想 一研究力の拠点から	山口 周 (東京大学名誉教授)
15:40 ~ 16:05	日本の学術に求められるこれからの課題 一協働、多様性、文化—	渡辺 美代子 (日本学術会議第二委員会、日本学術会議事務局総務課副課長(クラウドファンディング))
16:15 ~ 16:40	学術研究構想とグランドビジョンの実現に向けた課題 学術と社会のたすけあみ創造に向けて—学術振興構想とグランドビジョン実現に向けた課題—	中村 謙治 (国立研究開発法人科学技術振興機構名誉総務課長、元株式会社日立製作所執行役員)
16:40 ~ 17:05	未来の学術振興構想】を政策の観点から考える	栗山 豊 (東京大学大学院総合文化政策研究センター特任教授)
17:05 ~ 17:30	我が国の科学技術・イノベーション政策について	山本 正樹 (伊藤科学技術・イノベーション推進機構理事、藤原研三(伊藤) 理事(特別))
17:30 ~ 17:50	まとめ・閉会挨拶	山田 一樹 (日本学術会議第三委員会、科学振興委員会学術研究振興分科会委員長、東京大学工学部研究科マテリアル工学専攻教授)

主催: 日本学術会議 企画: 科学振興委員会学術研究振興分科会
お問い合わせ先: 日本学術会議事務局企画課学術フォーラム担当 TEL: 03-3403-6295

「未来の学術振興構想」

- 提言「未来の学術振興構想(2023年版)」を策定(2023年9月25日)
 - 今後20~30年頃まで先を見据えた
 - 学術振興の複数の「グランドビジョン」と
 - その実現の観点から必要となる「学術の中長期研究戦略」から構成
- 「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」を踏まえた科学的助言機能の強化
 - 中長期的視点、俯瞰的視野、分野横断的な検討を重視
- 科学者コミュニティからの「学術の中長期研究戦略」の提案を公募
 - 科学者コミュニティから自由な発想に基づくボトムアップを重視し、
 - 研究・教育機関、学協会、日本学術会議会員・連携会員及び若手研究者から広く募集
 - 複数の研究コミュニティが連携した複合的な提案、
 - 予算の下限を設けず人文・社会科学分野が中核的に関わる提案について積極的に掘り起こし



3. ナショナルアカデミーとしての国際的プレゼンスの向上

(具体的な取組)

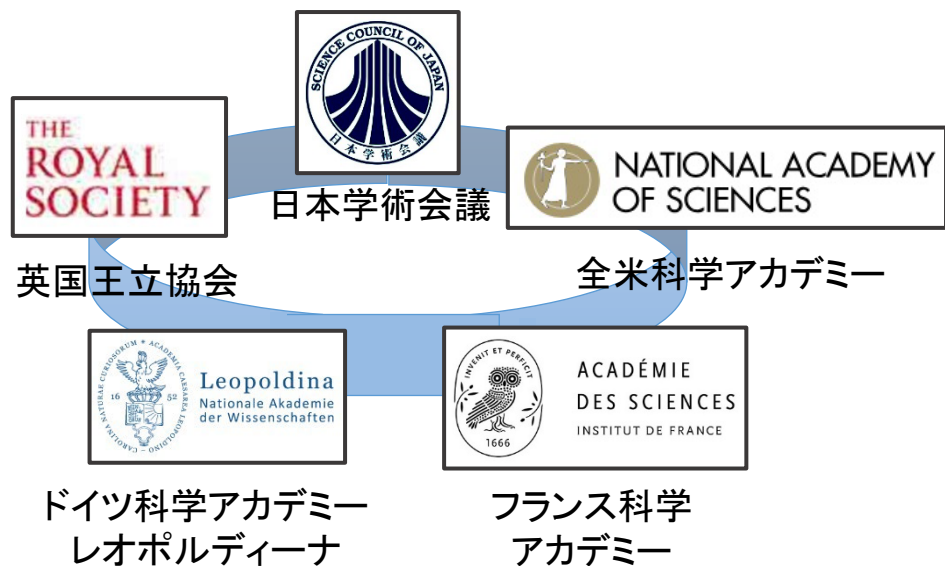
✓国際アドバイザーボードの開催

⇒ 初会合を開催(10/7)

✓世界のリーディングアカデミーとの連携、アジア学術会議を軸としたアジア地域におけるリーダーシップの発揮

✓主要国若手アカデミー間の国際連携活動等を通じた次世代育成

国際アドバイザリーボード



- 主要4ヶ国(英・独・仏・米)のナショナルアカデミーと、連携の強化及び日本学術会議の国際活動への助言等を目的として開催
- 初回会合では、連携強化の方策及び日学のアクションプラン等について議論

<開催概要>

日時 : 2024年10月7日(月) 15:00-16:30
場所 : 京都国際会館
参加者 : 光石会長、日比谷副会長、磯副会長
英 副会長、仏 前会長
※独及び米国は欠席



会議風景
(京都国際会館にて撮影)

4. 産業界、NGO/NPOをはじめとする多様な団体、国民とのコミュニケーションの促進

(具体的な取組)

✓ 産業界からの会員・連携会員を核とした産業界との対話の促進

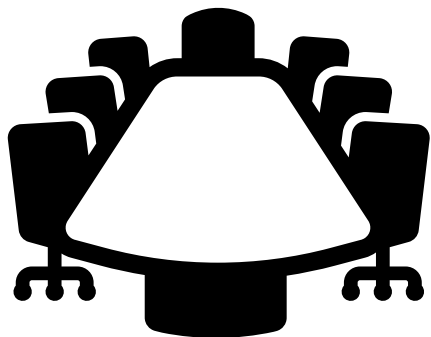
⇒ 産業界に所属する会員と企画WGの意見交換を実施

⇒ COCNとの意見交換を実施予定

✓ 国民とのコミュニケーションの促進の具体化

⇒ こども霞が関見学デーの実施(初の試み)

産業界とのコミュニケーション推進



- 産業界に所属する会員と企画WGで意見交換を実施
 - COCN(産業競争力懇談会)と日本学術会議会長・副会長等との意見交換を実施
 - 産業界の視点から学術会議へ期待することなどをテーマ
- ⇒ 産業界等とのコミュニケーションにより得られた成果を日本学術会議の活動へ反映

こども霞が関見学デーの実施



にほん がくじゅつ かいぎ
日本学術会議
かすみ せき けんがく
こども霞が関見学デー

11:00-16:00
参加費無料

令和6年 8月7日(水) 8日(木)

<会場> 日本学術会議庁舎
東京都港区六本木7-22-34
※東京メトロ千代田線「乃木坂」駅 5番出口
(青山公園方面) から徒歩1分
<https://www.scj.go.jp/kodomo/index.html>

科学のせかいをのぞいてみよう!

プログラム

① せんせいといっしょに自由研究〜カガクからのぞく家族と宇宙〜
日本学術会議の先生と一緒に動物や宇宙、法律の不思議についてお話をしよう!

【予定プログラム】(※各回定員30名)
◆8月7日(水) 13:30~14:30
いろいろな生き物のいろいろな子育て・家族と法律〜紙状を書いてみよう〜

◆8月8日(木) 13:30~14:30
宇宙を探索してみよう・宇宙法の話〜宇宙環境の保護と法律

事前申込制 申し込みはこちらから→

② こども学術会議〜自分のアイデアを発表してみよう〜
日本学術会議の講堂で、自分のアイデアをスクリーンに映して発表してみよう!

予約不要

③ 意外と難しい! 一番の「つり名人」はだれだ?!
「日」「本」「学」「術」「会」「議」と書かれたお魚をみんなは釣れるかな?

予約不要

- こども(小中学生・幼児等)に向けて、日本学術会議を広く知ってもらう機会を設定(初の試み)
- 「こども霞が関見学デー」にあわせて実施
- 生き物や宇宙をテーマにしたこどもにもわかりやすい講演、ミニゲームなどのプログラムを企画

5. 学術を核とした地方活性化の促進

(具体的な取組)

- ✓ 地方学術会議等を活用した地方活性化に関する取組の検討

6. 情報発信機能の強化

(具体的な取組)

- ✓ 国民・社会を意識したウェブページの充実

⇒ 会長メッセージ動画の掲載等

- ✓ プロフェッショナル人材等の活用

⇒ 日本学術会議アドバイザーとしてプロフェッショナル人材を委嘱

- ✓ 若年層への情報発信に向けた検討

6. 情報発信機能の強化

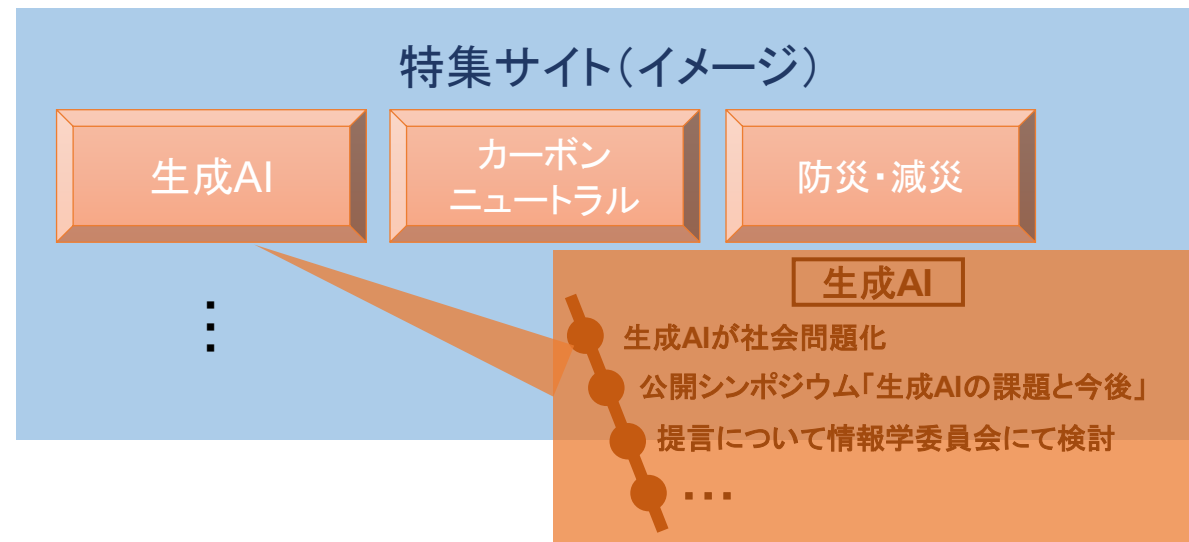
日本学術会議Webサイトの充実

- 国民に向けた、わかりやすい動画を順次作成・公開
 - 第1弾として会長メッセージ動画を公開(今後の動画についても検討中)
- テーマ別に知りたい情報を見やすくした「特集サイト」を順次作成・公開(予定)

会長メッセージ動画



特集サイト(イメージ)



プロフェッショナル人材等の活用

- 広報・コミュニケーションの専門家・プロフェッショナル人材の更なる活用 等
 - 日本学術会議アドバイザーとしてプロフェッショナル人材を委嘱(R4.9~)。広報委員会等の広報に関する検討や広報コンテンツ作成への参画により、広報機能をさらに充実・強化

7. 事務局機能の拡充を含む企画・執行体制の強化

(具体的な取組)

✓企画WGによるアクションプランの推進体制の強化

✓アクションプランを踏まえた事務局体制の強化

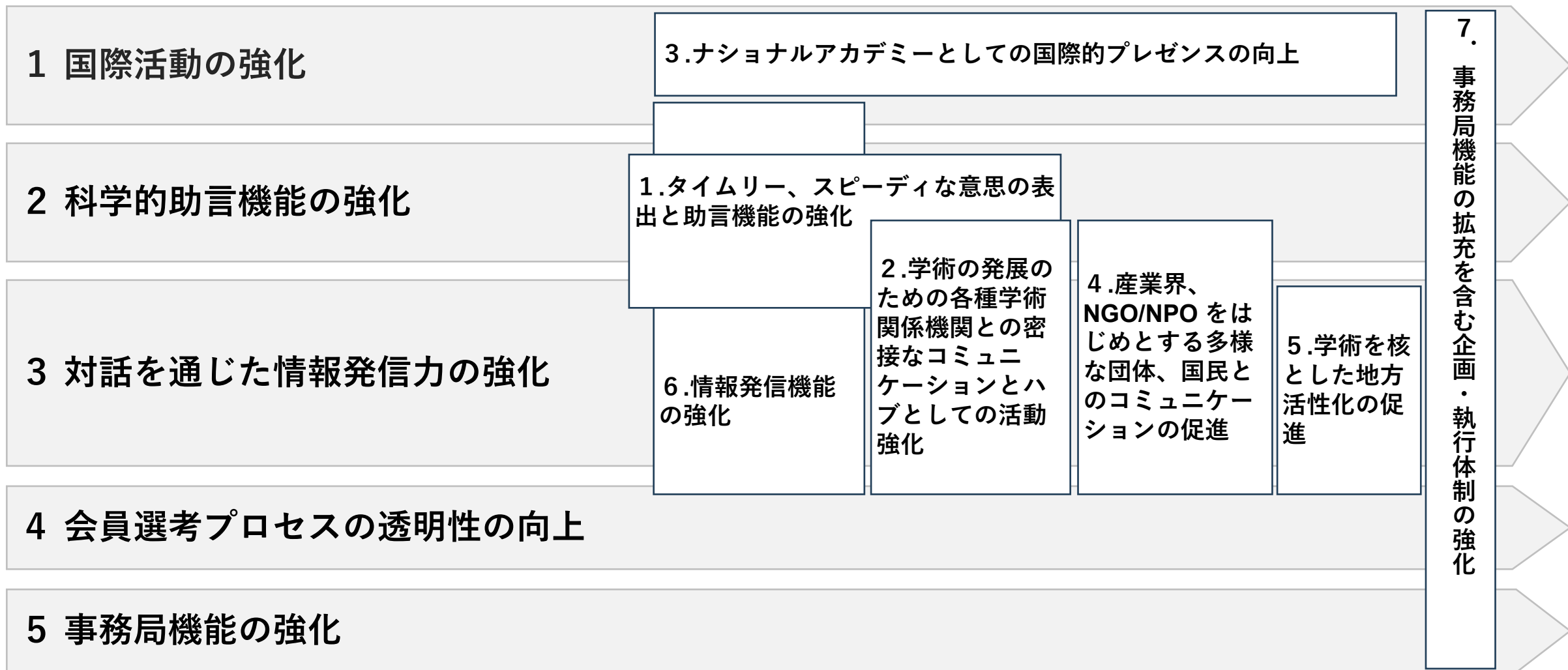
⇒会長・副会長のリーダーシップをより発揮するための方策の検討

⇒若手専門人材の活用による事務局機能の強化

等

日本学術会議のより良い役割発揮に向けて

日本学術会議第26期アクションプラン





未来の学術振興構想について (学術フォーラムの結果報告等)

2024年10月22日

日本学術会議 第三部会員
科学者委員会 学術研究振興分科会 委員長
森田一樹

学術研究振興分科会(25期)について

設置目的:学術研究や研究資金に関する検討を行う。

・25期(令和3年1月28日設置)の3つの課題・審議事項:

- ①重要な学術研究の推進(多額の予算を必要とする研究計画の企画、推進方策)に関する検討
- ②研究資金(科研費・寄付金等)に関する諸問題の検討
- ③研究評価基準に関する問題の整理と課題の抽出

委員長:光石 衛 副委員長:丹下 健

幹事:日比谷潤子、山崎典子

提言:「未来の学術振興構想(2023年版)」(令和5年9月25日発出)

・未来の学術振興構想評価小委員会による募集提案の審査
(会員51名および連携会員21名)

学術研究振興分科会(26期)について

科学者委員会（学術研究振興分科会）				
委員長	森田 一樹	副委員長	山本 晴子	幹事 山崎 典子、早川 誠
主な活動	審議内容			
	25 期に			
	1. 重要な学術研究の計画に関する検討			
	2. 研究資金（科研費・寄付金等）に関する諸問題の検討			
	3. 研究評価基準に関する問題の整理と課題の抽出			
	を経て公表した提言「未来の学術振興構想（2023 年版）」の周知・普及を行い、国民等の思いやニーズ・関心を把握するための双方向コミュニケーションの充実を図る。			
	意思の表出（※見込み含む）			
提言「未来の学術振興構想（2023 年版）」の改訂				
開催シンポジウム等				
学術フォーラム「未来の学術振興構想－実現に向けて－」開催（令和6年10月4日）				
開催状況	第1回 学術研究振興分科会 令和6年2月28日			
今後の課題等	25 期に公表した提言のフォローアップを念頭に、アンケート等を通して、今後 20～30 年先を見通す学術振興の「19 のグランドビジョン」とそれを実現するための「学術の中長期研究戦略」の内容を精査し、必要に応じて更新を検討する。			

日本学術会議主催学術フォーラム

未来の学術 振興構想

— 実現に向けて —

25 期に発出した提言「未来の学術振興構想（2023 年版）」について、提言の内容を広く社会において共有するとともに、その実現に向けてどのような活動が行われるべきであるか、また、本構想をより豊かにしていくためにどのようなことが考えられるかなどについて、日本学術会議各部の専門家及び外部有識者による議論を行います

令和
6年

10月4日(金) 13:00～18:00

【開催場所】 日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）

〒106-8555 東京都港区六本木7-22-34

東京メトロ千代田線「乃木坂駅」下車、5番出口より徒歩1分

参加費
無 料

事前参加
申込制

どなたでもご参加
いただけます。

申込方法

▶ 事前申し込みは下記 URL または QR コードから

<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0270.html>

申込メ切：9月27日(金)

日本学術会議講堂での参加は定員になり次第締め切り、超過の際はオンライン参加



プログラム

司会進行：山本 晴子（日本学術会議第二部会員、国立研究開発法人国立循環器病研究センター理事）

13:00～13:05	開会挨拶	光石 衛（日本学術会議会長／第三部会員、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構理事、東京大学名誉教授）
	未来の学術振興構想（2023）について【提言策定経緯】	
13:05～13:15	「未来の学術振興構想（2023）」の目指したもの	光石 衛（再掲）
13:15～13:30	「未来の学術振興構想（2023）」提言策定経緯	山崎 典子（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所教授）
	【人文・社会科学関連分野】	
13:30～13:45	ネットワーク社会における包摂性と多様性の実現	鈴木 基史（日本学術会議第一部会員、京都大学大学院法学研究科教授）
	【生命科学関連分野】	
13:45～14:05	生命科学の新たな展開と創成	石塚 真由美（日本学術会議連携会員、北海道大学大学院獣医学研究院教授）
	【理学・工学関連分野】	
14:05～14:35	自然の探求と技術革新による未来社会の基盤形成	田近 英一（日本学術会議連携会員、東京大学大学院理学系研究科教授）
	【分野融合】	
14:35～15:05	分野融合で拓く学術の未来	岸本 喜久雄（日本学術会議連携会員、東京工業大学名誉教授）
	休 憩	
	日本の学術の現在と未来の学術振興構想	
15:15～15:40	未来の学術振興構想 ー研究力の視点からー	山口 周（東京大学名誉教授）
15:40～16:05	日本の学術に求められるこれからの展開 ー協働、多様性、文化ー	渡辺 美代子（日本学術会議連携会員、日本大学常務理事・特定非営利活動法人ウッドデッキ代表理事）
	休 憩	
	学術研究構想とグランドビジョンの実現に向けた課題	
16:15～16:40	学術と社会のたゆまぬ前進に向けてー学術振興構想とグランドビジョン実現に向けた課題ー	中村 道治（国立研究開発法人科学技術振興機構名誉理事長、元株式会社日立製作所執行役員副社長）
16:40～17:05	「未来の学術振興構想」を政策の観点から考える	菱山 豊（順天堂大学革新的医療技術開発研究センター特任教授）
17:05～17:30	我が国の科学技術・イノベーション政策について	山本 正樹（内閣府科学技術・イノベーション推進事務局参事官（総括担当）付参事官補佐）
17:30～17:50	まとめ・閉会挨拶	森田 一樹（日本学術会議第三部会員、科学者委員会学術研究振興分科会委員長、東京大学大学院工学系研究科マテリアル工学専攻教授）

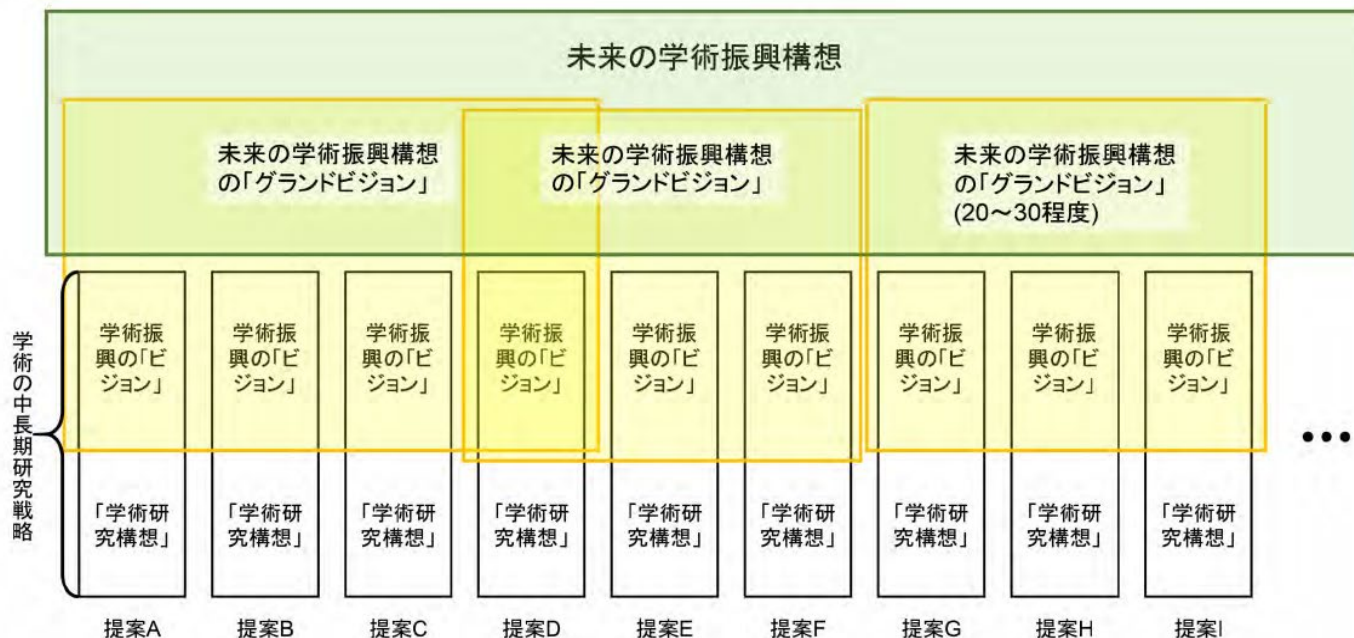
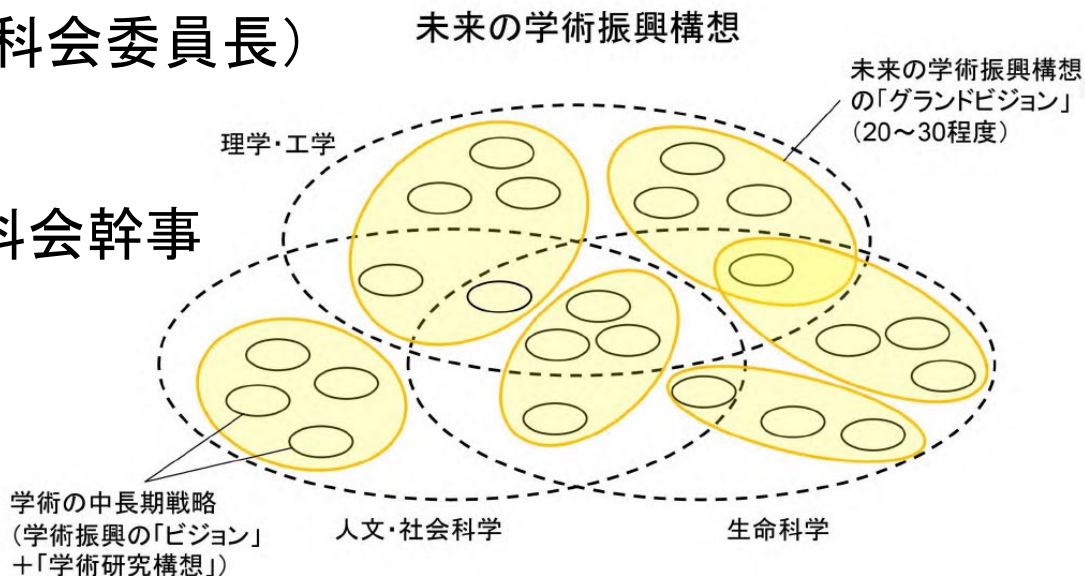
【提言策定経緯】

会長(25期 学術研究振興分科会委員長)

光石 衛

25期/26期 学術研究振興分科会幹事

山崎典子



分野別提案件数と グランドビジョン一覧

分野	提案件数
人文・社会科学	9 (4.6%)
生命科学	17 (8.8%)
理学・工学	78 (40.2%)
分野融合	90 (46.4%)
人文・社会科学と生命科学	2 (1.0%)
人文・社会科学と理学・工学	18 (9.3%)
生命科学と理学・工学	12 (6.2%)
3分野すべて	58 (29.9%)
合計	194

()内は全体の応募件数の合計に占める割合

No.	グランドビジョン	No.	グランドビジョン
1	言語・コミュニケーション研究の充実を踏まえた現代社会問題のデータ解析による解決策の提示	11	数学・数理科学・量子情報科学が切り拓く未来社会
2	長い時間軸・大きな空間軸・多様な視点からのヒトと社会の科学	12	観測技術革新による地球システムの理解と地球変動予測への展開
3	日本史学を含めた非西洋史学の再構築と国際協働	13	地球規模の環境危機にレジリエントな持続的社会の構築
4	地球の生命環境と食料供給を持続させるための学術創生	14	エネルギーと環境の両立的課題解決
5	生命現象の包括的理解による真のWell-beingの創出	15	持続可能社会に資する革新的な物質・材料の開拓
6	ビッグデータ駆動による生命科学の新たな発展	16	量子ビームを用いた極限世界の解明と人類社会への貢献
7	ヒトの知性を知る、創る、活かすための学術の創生	17	太陽系探査の推進と人類のフロンティア拡大
8	超スマート社会における人の能力拡張とAIとの共生	18	宇宙における天体と生命の誕生・共進化の解明
9	サイバー空間の構築・活用による価値創造	19	自然界の基本法則と宇宙・物質の起源の探求
10	データ基盤と利活用による学術界の再構築		

【人文・社会科学関連分野】

ネットワーク社会における包摂性と多様性の実現

京都大学 法学研究科 教授 鈴木基史（第一部会員）

- ・ 共通の問題意識：個（個人・文化）の尊重と集団（共同体・学术界）の調和との間の緊張関係
- ・ 実社会と研究環境の両方で、多様性と包摂性を兼ね備えた健全なネットワーク社会（共生社会）の実現に資する人文・社会科学

No.	グランドビジョン	No.	グランドビジョン
1	言語・コミュニケーション研究の充実を踏まえた現代社会問題のデータ解析による解決策の提示	11	数学・数理科学・量子情報科学が切り拓く未来社会
2	長い時間軸・大きな空間軸・多様な視点からのヒトと社会の科学	12	観測技術革新による地球システムの理解と地球変動予測への展開
3	日本史学を含めた非西洋史学の再構築と国際協働	13	地球規模の環境危機にレジリエントな持続的社会の構築
4	地球の生命環境と食料供給を持続させるための学術創生	14	エネルギーと環境の両立的課題解決
5	生命現象の包括的理解による真のWell-beingの創出	15	持続可能社会に資する革新的な物質・材料の開拓
6	ビッグデータ駆動による生命科学の新たな発展	16	量子ビームを用いた極限世界の解明と人類社会への貢献
7	ヒトの知性を知る、創る、活かすための学術の創生	17	太陽系探査の推進と人類のフロンティア拡大
8	超スマート社会における人の能力拡張とAIとの共生	18	宇宙における天体と生命の誕生・共進化の解明
9	サイバー空間の構築・活用による価値創造	19	自然界の基本法則と宇宙・物質の起源の探求
10	データ基盤と利活用による学术界の再構築		

【生命科学関連分野】

生命科学の新たな展開と創成

北海道大学 獣医学研究院 教授 石塚真由美(連携会員)

- ・地球規模での課題、ヒト／動物／環境を一体としてとらえるコンセプト
- ・AIやビッグデータとの融合
- ・多層な異分野との連携

No.	グランドビジョン	No.	グランドビジョン
1	言語・コミュニケーション研究の充実を踏まえた現代社会問題のデータ解析による解決策の提示	11	数学・数理科学・量子情報科学が切り拓く未来社会
2	長い時間軸・大きな空間軸・多様な視点からのヒトと社会の科学	12	観測技術革新による地球システムの理解と地球変動予測への展開
3	日本史学を含めた非西洋史学の再構築と国際協働	13	地球規模の環境危機にレジリエントな持続的社会的構築
4	地球の生命環境と食料供給を持続させるための学術創生	14	エネルギーと環境の両立的課題解決
5	生命現象の包括的理解による真のWell-beingの創出	15	持続可能社会に資する革新的な物質・材料の開拓
6	ビッグデータ駆動による生命科学の新たな発展	16	量子ビームを用いた極限世界の解明と人類社会への貢献
7	ヒトの知性を知る、創る、活かすための学術の創生	17	太陽系探査の推進と人類のフロンティア拡大
8	超スマート社会における人の能力拡張とAIとの共生	18	宇宙における天体と生命の誕生・共進化の解明
9	サイバー空間の構築・活用による価値創造	19	自然界の基本法則と宇宙・物質の起源の探求
10	データ基盤と利活用による学術界の再構築		

【理学・工学関連分野】

自然の探求と技術革新による未来社会の基盤形成

東京大学 理学系研究科 教授 田近英一（連携会員）

- ・学術の基盤となる基礎科学をベースとした7つのグランドビジョン
- ・技術開発を伴う新たな学術的知見により社会的波及効果が期待

No.	グランドビジョン	No.	グランドビジョン
1	言語・コミュニケーション研究の充実を踏まえた現代社会問題のデータ解析による解決策の提示	11	数学・数理科学・量子情報科学が切り拓く未来社会
2	長い時間軸・大きな空間軸・多様な視点からのヒトと社会の科学	12	観測技術革新による地球システムの理解と地球変動予測への展開
3	日本史学を含めた非西洋史学の再構築と国際協働	13	地球規模の環境危機にレジリエントな持続的社会の構築
4	地球の生命環境と食料供給を持続させるための学術創生	14	エネルギーと環境の両立的課題解決
5	生命現象の包括的理解による真のWell-beingの創出	15	持続可能社会に資する革新的な物質・材料の開拓
6	ビッグデータ駆動による生命科学の新たな発展	16	量子ビームを用いた極限世界の解明と人類社会への貢献
7	ヒトの知性を知る、創る、活かすための学術の創生	17	太陽系探査の推進と人類のフロンティア拡大
8	超スマート社会における人の能力拡張とAIとの共生	18	宇宙における天体と生命の誕生・共進化の解明
9	サイバー空間の構築・活用による価値創造	19	自然界の基本法則と宇宙・物質の起源の探求
10	データ基盤と利活用による学術界の再構築		

【分野融合】

分野融合で拓く学術の未来

東京工業大学 名誉教授 岸本喜久雄(連携会員)

- ・分野融合の意義
- ・AIやSIPを例に見る、定期的な取り纏めの重要性

No.	グランドビジョン	No.	グランドビジョン
1	言語・コミュニケーション研究の充実を踏まえた現代社会問題のデータ解析による解決策の提示	11	数学・数理科学・量子情報科学が切り拓く未来社会
2	長い時間軸・大きな空間軸・多様な視点からのヒトと社会の科学	12	観測技術革新による地球システムの理解と地球変動予測への展開
3	日本史学を含めた非西洋史学の再構築と国際協働	13	地球規模の環境危機にレジリエントな持続的社会の構築
4	地球の生命環境と食料供給を持続させるための学術創生	14	エネルギーと環境の両立的課題解決
5	生命現象の包括的理解による真のWell-beingの創出	15	持続可能社会に資する革新的な物質・材料の開拓
6	ビッグデータ駆動による生命科学の新たな発展	16	量子ビームを用いた極限世界の解明と人類社会への貢献
7	ヒトの知性を知る、創る、活かすための学術の創生	17	太陽系探査の推進と人類のフロンティア拡大
8	超スマート社会における人の能力拡張とAIとの共生	18	宇宙における天体と生命の誕生・共進化の解明
9	サイバー空間の構築・活用による価値創造	19	自然界の基本法則と宇宙・物質の起源の探求
10	データ基盤と利活用による学術界の再構築		

【日本の学術の現在と未来の学術振興構想について】

未来の学術振興構想 —研究力の視点から—

東京大学 名誉教授(24期・25期会員)山口 周

(25期「我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会」委員長)

- ・研究力は量と質のかけ算
- ・我が国の競争力の現状と課題
- ・良き人的研究環境の確保
- ・創造性・独創性を育むための研究支援
- ・形式主義を排除した研究評価の重要性

日本の学術に求められるこれからの展開

—協働、多様性、文化—

日本大学 常務理事(連携会員、24期副会長)渡辺美代子

(NPO法人ウッドデッキ代表理事)

- ・日本学術会議の未来構想とマスタープランの変遷
- ・日本のSDGs達成状況
- ・ジェンダー問題
- ・日本学術会議に対する今後の期待:他機関との協働、多様性の推進、我が国の新しい文化との連携

【学術研究構想とグランドビジョンの実現に向けた課題】

学術と社会のたゆまぬ前進に向けて

—学術振興構想とグランドビジョン実現に向けた課題—

JST名誉理事長、元日立製作所執行役副社長 中村道治

- ・研究力強化に対する学術界の意思表示の重要性
- ・骨太プログラム、ロードマップ、政策立案者への働きかけの重要性
- ・誰にむけて発信し、どのように活用するのか
- ・5年に1度の見直し

「未来の学術振興構想」を政策の観点から考える

順天堂大学 特任教授(元文科省) 菱山 豊

- ・誰に向けての提言
- ・国民にわかりやすい言葉で書くべき
- ・国民や人類へのメリットが説明不足
- ・課題解決型が多い
- ・幅広いステークホルダーとの協力が不足しているビジョンがある
- ・キャッチアップ型の説明が多いが日本の強みを強調することも重要
- ・モラルをはじめとした人間の本質に迫るという観点も必要
- ・19のグランドビジョンを繋ぐストーリーが必要

我が国の科学技術・イノベーション政策について

内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局 参事官補佐 山本正樹

- ・「Society 5.0」の実現を目指す第6期基本計画のポイント
- ・統合イノベーション2024推進の方策

- ・出席者（関係者以外現地参加：39名、最大視聴者192名）
- 【参加者アンケート（10/16時点）】

回答者数：20名

未来の学術振興構想（2023年版）に対するご意見例：

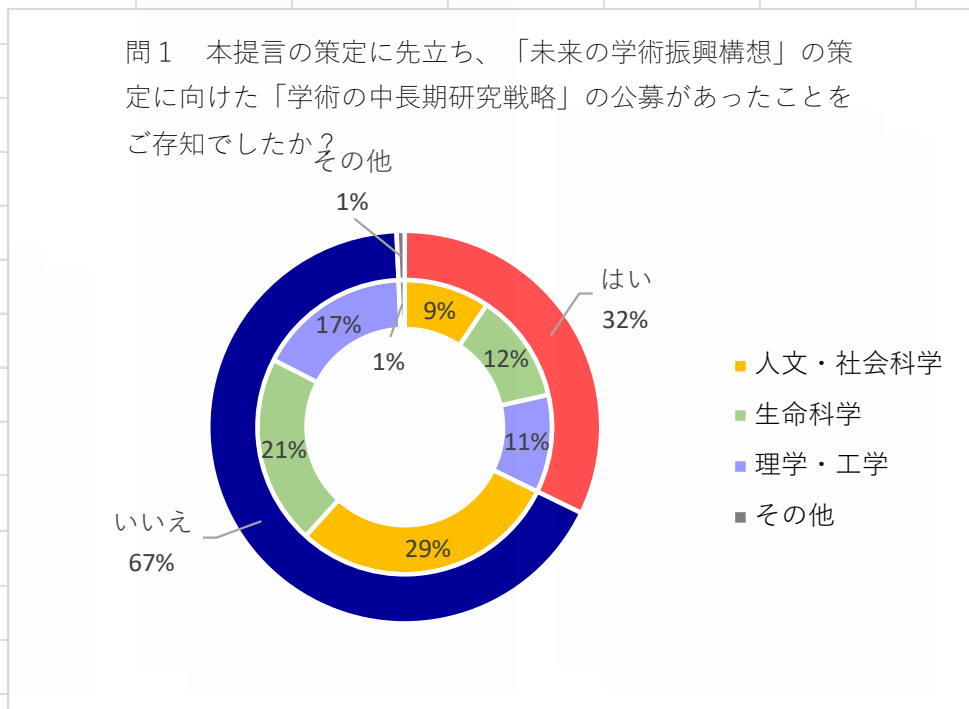
- ・とても重要な取り組み
- ・グランドビジョンの分野間の傾斜
- ・学協会への周知方法の改善
- ・目的と目標の分離による容易な達成度評価
- ・狙いと対象を明確に
- ・グランドビジョンあるいは4分野グループ（人文社会、生命科学、理学工学、融合分野）ごとの会議等を通じた各提案の相互理解の必要性
- ・グランドビジョンの重なりを示す立体的表現の必要性

【学協会に対するアンケート】

有効回答数：149件

問1. 本提言の策定に先立ち、「未来の学術振興構想」の策定に向けた「学術の中長期研究戦略」の公募があったことをご存知でしたか？

人文・社会科学	14	
生命科学	18	
理学・工学	16	
はい		48
人文・社会科学	44	
生命科学	31	
理学・工学	25	
いいえ		100
その他	1	
その他		1
合計		149



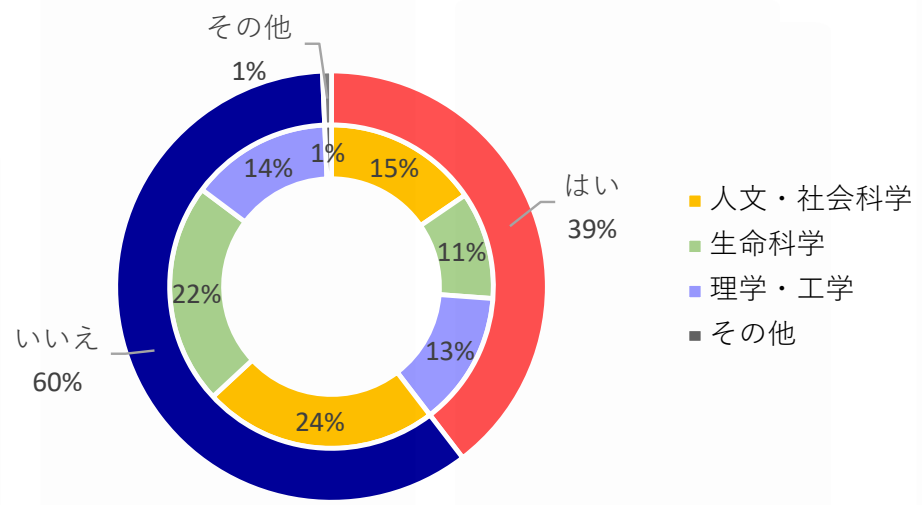
【学協会に対するアンケート】

有効回答数: 149件

問2. この提言「未来の学術振興構想 (2023 年版)」が発出されたことをご存知でしたか？

人文・社会科学	23	
生命科学	16	
理学・工学	20	
はい		59
人文・社会科学	35	
生命科学	33	
理学・工学	21	
いいえ		89
その他	1	
その他		1
合計		149

問2. この提言「未来の学術振興構想 (2023 年版)」が発出されたことをご存知でしたか？



【学協会に対するアンケート】

有効回答数：149件

未来の学術振興構想(2023年版)に対する主な意見：

- ・各関係分野のさらなるグランドビジョンへの盛り込みの必要性
- ・「学術の中長期研究戦略」については、単一学会からではなく、関連学会とともに、より大きなビジョンで提案するのがベター
- ・学術会議会員以外への周知が不十分、認知を広げる重要性
- ・特定の分野のみならず、幅広い研究分野のサポートも重要
- ・学・協会が協働するプロジェクトの構築も必要
- ・将来・未来を見据えた構想の準備は、我が国の学術発展に必須
- ・定期的アップデートも必要
- ・提案者の活動の追跡調査、学術会議での内容紹介機会提供
- ・国際的な協働の視点が少ない
- ・認知度を高め、各省庁や企業が予算付け可能な仕組みの構築
- ・日本学術会議が政府に粘り強く働きかけて欲しい
- ・今後、複数回の案内等、学会に対する周知の工夫
- ・短期的視点「マスタープラン」と長期的視点の「未来の学術振興構想」の両立

【26期 学術研究振興構想分科会の活動方針案】

○2023年版提言のフォローアップ

提言の意義・対象に関する疑問への明確なメッセージ
提言の周知のための方策

○2023年版提言の改訂(2026年版の策定)

アンケート等による意見集約

提言策定プロセスの検証（ボトムアップのみでよいか？）

2023年版各グランドビジョンごとの検討

今後改訂の方針についての検討

（既存提案の改訂と新規提案を分けて募集等）

2025年春頃改訂公募開始を目指す

26期課題別委員会
「我が国の学術の発展・研究力強
化に関する検討委員会」

林 隆之
政策研究大学院大学 教授
日本学術会議 連携会員

問題認識

- 日本の学術の国際競争力の後退
 - 引用数トップ10%論文数は世界13位に低下
- 政府も問題を10年以上前から認識し、方策を打ってきた。一部は改善されつつあるが（博士学生支援など）、全体的にいまだ低下傾向。
- 日本学術会議は、科学者コミュニティを代表する立場として、各学術分野における具体的な「研究力」の内容とそれへ影響する要因に関する精緻な議論を行い、政策議論へ貢献する必要がある。

前期（25期）

- 山口周委員長（東京大学名誉教授）のもとで検討
- 途中に、内閣府より審議依頼
政府では「研究力強化・若手研究者支援総合パッケージ」を進めている中、以下の論点の検討を日本学術会議に依頼：
 1. **研究力向上に資する研究環境改善のための総合的な政策の在り方**とそのためにアカデミアを始めとする関係者が行うべき具体的方策の検討
(研究時間確保など生産性向上のための具体策、国際的な人材流動性や国際化の推進など)
 2. **優れた若手研究者が活躍するための研究環境整備の在り方**とそのための具体的方策
(若手研究者のスタートアップ支援や国際的研究ネットワーク構築支援、環境整備のための支援の方策など)
 3. **博士課程進学者増加及び学位取得後の多様で豊かなキャリアパス実現のための取組の在り方**と具体的方策
(海外の高学歴化や多様なキャリアロールモデルに対応した取組、学位を目指すモチベーションを高めるための取組、学位取得者の多様な雇用形態の実現など)
- 委員会は当初の予定を変えて、上記の論点に対する回答を審議・作成

回答「研究力強化－特に大学等における研究環境改善の視点から－に関する審議について」

(令和4年(2022年)8月5日)

【提案1】教育業務の最適化

- ・ COVID-19で導入されたリモート講義を活用し、教育の質を向上させながら教員の時間リソースを最適化する。

【提案2】学生・教員サポートシステムの創設

- ・ 学生支援のために専門スタッフの配置や外部機関との連携を強化する。

【提案3】事務・技術サポート強化と研究機器環境（コアファシリティ）整備

- ・ 経理事務や研究支援体制を効率化し、最先端研究機器の整備や技術者の配置を推進して研究環境を改善する。

【提案4】科研費の全種目基金化による研究力向上

- ・ 科研費を基金化し、年度を超えた予算の柔軟な運用を可能にして、研究力向上を支援する。

【提案5】過剰評価と評価疲れの解消

- ・ 評価の質・量を適切にし、研究者の評価疲れを軽減するために、フィードバックの反映方法を見直す。

【提案6】若手研究者のスタートアップ支援の充実

- ・ 着任直後の研究支援を拡充し、すべての若手研究者にスタートアップの機会を提供する。

【提案7】若手研究者の国際的人材流動性・国際ネットワーク構築

- ・ 国際的な人材流動性とネットワーク構築を推進し、研究者が国際的に活躍できる環境を整備する。

【提案8】博士課程学生の位置付けの明確化

- ・ 博士課程学生の「研究者」としての社会的な位置付けを明確化し、進学者を増加させる政策を強化する。

【提案9】多様な博士課程進学者とキャリアパス

- ・ 博士課程修了後の多様なキャリアパスを形成し、産官学の協力によって博士人材の流動性を高める。

【提案10】学術研究に対する社会的理解の醸成に向けたステートメント発出

- ・ 学術研究の重要性を社会に広めるため、政府や産業界と協力して積極的な支援メッセージを発信する。

今期の方針（第1回委員会実施時点）

■ 「研究力」の定義

- 25期では研究環境改善の審議依頼内容を踏まえ、「研究力」を
 - ① 「人材＝博士課程学生数」×「安定的ポスト＝教員/研究者数」
 - ② 「研究費」
 - ③ 「研究環境（＝「研究時間」×「コアファシリティ」×「教育・評価・学生対応）」
 - ④ 「社会的理解」の4要素で構成されるものと仮定し、改善方策を検討。
- 改めて、そもそも「研究力」とは何であり、どのように低下しているのか。
 - 政府のKPIのように、論文数や引用数が「研究力」の指標か？
 - 分野によって「研究力」の定義も、過去20年間の変化も、改善方策も異なるはず。
- 日本学術会議が全分野の第一線の研究者の集団であるという強みを生かし、最先端の研究現場の実態を政策議論に提示する必要がある。
 - 現在の研究力の低下が、将来の日本の学術や社会経済にどのような影響をもたらすのか。
 - 具体的に、行政府が「これが実現されれば、研究力が改善する」という確信が持てるほどの粒度で議論。

今後の進め方 (1)

- 「研究力」を学術的貢献と社会・経済的インパクトの双方の視点を持って、「基盤的な研究の厚みに基づき、先端的な研究をダイナミックに展開することを持続的に可能とする能力」と仮に定義。
- 【方策1】各分野における「研究力」についてヒアリング
 - ▶いくつかの分野別委員会と一定の項目で意見交換

各分野では「研究力」をどのように考えているか。
日本の当該分野の研究力の変化はどうか。

「研究力」をどのように考えているか。

- ✓ 政府が用いる論文数・引用数は妥当か。
- ✓ イノベーション・社会課題解決と学術研究の関係をどのように考えるか。

「研究力」について、日本の国際的な強さはどうか。

- ✓ 国際的な研究コミュニティに（若手を含めて）参加できているか。
- ✓ どの国がどのような理由で優れているのか。

10年前、20年前（国立大学の法人化前）等の過去と比べて、どのように変化してきたか。

今後10年を見据えて、発展が期待される先端的領域や必要な基盤的領域は何か。

研究力の阻害要因は何か。

何が日本の研究力を阻害しているか

- ✓ 資金、時間などの分野共通する事項。当該分野で特徴的に必要な、設備・資源（データ等）、拠点化、国際連携体制構築など。
- ✓ 教育・社会サービスなどの多様な機能とのバランス
- ✓ 若手研究者などの人材育成における課題

研究力向上には具体的には誰が何をすべきか。

どのような方策が、阻害要因の解消や、国際的先導のために有効であるか。

- ✓ 日本の人口減少の中で、当該研究領域の規模や質の維持発展をどう考えるか。
- ✓ 国がすること、大学がすること、学術コミュニティがすることは何か

研究力をモニタリングために必要な視点は。

今後、当該分野の研究力の推移を確認するには何をモニタリングすればよいか

今後の進め方 (2)

- 【方策2】 分野横断的事項の検討
 - 行政府、産業界、大学団体、海外在住研究者のヒアリング + 国際的な学術政策動向や国内調査研究の情報など
 - 第一回委員会時点での論点例：

■ 研究者という職の魅力をいかに向上できるか

- ✓ 職業ステータス、雇用条件（雇い止め問題）、研究者の国際獲得競争
- ✓ 自由な時間の確保、支援スタッフ、関連業務のDX

■ 研究環境

- ✓ 研究室スタートアップ、若手の環境
- ✓ 研究の国際コミュニティに入っているか

■ 大学院教育の改革

- ✓ 学生の質低下に適合した方策
- ✓ ノンアカデミックキャリア

■ 研究資金制度

- ✓ 基盤資金（交付金）と競争的資金のバランスの実証的な議論

■ 国立大学法人や国立研究開発法人などの組織制度

■ 研究成果発表

- ✓ 日本の学術成果の提示、出版社の問題

■ イノベーションや社会課題解決への貢献

- ✓ 人材のセクター間モビリティ。社会人の大学院への還流

■ オープンサイエンスや研究DX化などの新たな研究様式

■ 国際的な研究評価改革

- ✓ 「研究官僚主義」への対抗

■ 研究者労働人口が減少する中での日本の研究戦略

■ グローバルサウス国等との連携体制

日本学会全体としての議論とするため、
分野別委員会、課題別委員会からのご協力を
いただきますよう、
よろしくお願いいたします。

学協会との連携について

アクションプラン

- 学術の発展のための各種学術関係機関との密接なコミュニケーションとハブとしての活動強化

「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」より

- 学協会をはじめとした研究者コミュニティと日本学術会議との対話の機会を拡大
- 会員、連携会員のレベル、分野別の委員会・分科会のレベルそして各部ごとのレベルで、関係する学協会との対話・交流を活性化

学術会議の役割

- 学協会から、**意見や要望をくみ上げる**役割
- 学協会を通して、意思の表出等の**知見や情報を発信・普及**する役割
- 学協会が **相互に連携できる場を提供**する役割

連携推進に向けて

- 執行部と学協会連合等との意見交換
- **意思の表出の作成や公開に合わせた、関連学協会との情報交換**
- 各部における学協会連合等との交流促進
(例：学協会連絡協議会との意見交換や、合同シンポジウム開催等)